

研修だより

矢島小学校

No.32

06.2.8

道徳的実践力とは

要請訪問、研修会議等で度々話題になった「道徳的実践力」について考察します。

『小学校学習指導要領解説』には、次のように書かれています。

道徳的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の児童が道徳的価値を自分の内面から自覚し、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。それは、主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を包括するものである。

『小学校学習指導要領解説』P27-P28

要するに、こうでしょうか。

道徳的実践力 = 道徳的な「心情」「判断力」「実践意欲」「実践態度」 ← 内面的資質

あくまでも「内面的資質」である、としているところがポイントです。ここでは、「道徳的実践」と「道徳的実践力」は違うものとして、定義されています。次の文章が、その根拠です。

本来、道徳的実践は、内面的な道徳的実践力が基盤にならなければならない。道徳的実践力が育つことによって、より確かな道徳的実践ができるのであり、そのような道徳的実践を繰り返すことによって、道徳的実践力も強められるのである。道徳教育は、道徳的実践力と道徳的実践の指導が相互に響き合って、一人一人の道徳性を高めていくものでなければならない。

『小学校学習指導要領解説』P28

“道徳的実践”を「する力」、が道徳的実践力ではない。“道徳的実践”を「しようとする力」が道徳的実践力なのだ、と、ある指導主事から指導を受けました。

ややこしいが、仕方ありません。次のように、単純化してとらえることにしましょう。

道徳的実践（外面的資質） ↔ 道徳的実践力（内面的資質）